

病氣

イエスは、しばしば病人をいやしました。当時の人々の病氣に対する考えは、今の時代の私たちとは違っていました。今なら、病氣になると医者のところに行って病氣を治してもらいます。病氣の原因も、たいていの場合、病原菌によるものと考えられています。

しかし、当時の人々は、病氣になるのはその人に悪霊がついたからだと考えていました。つまり、その人の罪のせいだ悪霊が入り込み、病氣になったと考えていました。だから、病氣になると祈禱師のところに行ったり、有名な預言者のところに行って、病氣を治してもらいました。

病氣が治らない人は、町の外へ追い出され、罪人のようにあつかわれていました。一般の人は、病人にさわるとけがれると考えていましたので、病人に近づこうとしませんでした。

いやし

イエスが病人をいやされたのは、ただ病氣が治される事だけを意味していませんでした。つまり、病氣の原因である罪のゆるしをとまなっていました。病氣が

治された人は、病氣が治る事によって罪人とはみなされず、町の中を自由に歩く事もゆるされました。

こういう意味で、イエスが病人をいやされたのは、ただ不思議なわざを行なって、人々を引きつけるためではありませんでした。病人が一人の人間として社会の中で公に生活できる事を願っていたのです。

現代では、確かに医学が発達し、いろいろな病氣が治されています。しかし、医学的に健康な人でも病人と同じ人もいます。たとえ医学的に病氣が治っても病人であり続けるのは、回りの人がその人を一人の人間として大切にみつけないからです。今の社会のじゃま者、お荷物として考えている限り、その人のいやしはありえないのです。

いくら立派な施設を作っても、貧しい国の人々に援助金を送っても、いやしにつながりません。私たちがイエスと同じように、病氣や貧しさで苦しんでいる人たちと共に歩もうとする時、いやしが実現します。

この意味で、いやしは過去の出来事ではありません。私たちがイエスと同じようにいやしを行なう事が出来るのです。私たちが今までの生活をあらためて、一人一人の人間を大切にする行動を取って行く事が大切なのです。